

なぜか増えてる 自転車事故

エコ意識の高まりによって通勤などに自転車を利用する人が増え、自転車ブームともいえる状態が続いています。それに伴って自転車による事故が問題になっています。

10年で3倍に増えた歩行者との事故！

平成21年に自転車が当事者となった交通事故は15万6,373件で、交通事故全体の21.2%を占めています。この事故を相手当事者別に10年前（平成11年）と比較すると、対自動車、対二輪車の事故が減少しているものの、対歩行者事故は約3.7倍に増えています。また、自転車事故のうち、自転車側に法令違反があった割合は66.7%で、死亡事故では74.0%とさらに高くなっています（警察庁発表）。

現行犯逮捕のケースも

自転車は道路交通法上、車両の一種（軽車両）です。自動車との事故は車両相互事故として、歩行者との事故は人対車両事故として扱われます。自転車も事故を起こすと刑事上の責任が問われ、相手にケガを負わせた場合は民事上の損害賠償責任も発生します。

自転車事故の責任事例

飲酒して自転車を運転していた男が、小学生2人に衝突して負傷させた交通事故。

【「重過失傷害と道交法違反（酒酔い）」の疑いで現行犯逮捕】

高校生が夜間、携帯電話を操作しながら無灯火で走行中、女性と衝突。女性には重大な障害が残った。

【賠償金5,000万円】



止まれ

信号無視にも重い罰則が

自転車の違反には自動車のような青切符（反則金）がなく、すべて赤切符（罰金）のため、自動車より罰則が重くなるケースも少なくありません。

たとえば同じ信号無視でも、普通乗用車は9,000円の反則金ですが、自転車は「3か月以下の懲役又は5万円以下の罰金」と厳しく、しかも前科が付いてしまいます。

自転車危険運転の赤切符交付例

赤信号なのに市道交差点に進入した男性に、道交法違反（信号無視）の疑いで赤切符を交付。
（福岡県警）

2人乗りをしていた姉妹が白バイ隊員の警告を無視して走行、道交法違反（乗車積載制限）の疑いで赤切符を交付。
（神奈川県警）

危険走行や運転マナーの悪い自転車が増えています。自転車は本来、最も身近で人や環境にやさしい乗り物です。マナーを守って楽しく乗りましょう。

【今月のことば】 大塚陸毅（JR東日本会長）

経営は攻めた「難しければ、やる」という気持ちがなければならない

JR東日本は、民営化後、運行システムの改良によって、輸送力を30%増強するなど鉄道事業の拡大に取り組むとともに、鉄道事業以外の柱をつくることを経営課題とし、ICカード（Suica）や駅ナカ（改札内で展開する商業施設）事業などを手掛けてきた。若手社員グループから、「駅ナカ」の企画案が上がってきたとき、これまでの駅の商業施設にない新しい発想に、多くの役員は反対したが、大塚氏（当時社長）は、駅ナカに新しい発想と若手の情熱を感じ、「駄目だったら、そのときやめればいいじゃないか」と考え、ゴーサインをだした。